SDGs未来都市

日野市の第2次ごみ改革（プラごみの資源化）について

令和2年6月23日

日野市環境共生部参事　福田博保

中央環境審議会循環型社会部会プラスチック資源循環小委員会、
産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会、
プラスチック資源循環戦略ワーキンググループ合同会議　説明資料

日野市の概要

●人　口　：　187,021人（2020.6.1時点）
●世帯数　：　90,578世帯
●面積　27.55㎢

令和元年度
SDGs「未来都市」に選定されました
東京都の自治体では初めて

SDGsで新たに取り組むべき課題、テーマ

- 2000年に取り組んだ**第一次ごみ改革**による地道な活動、住民との共創・共感によりその翌年には**ごみの削減に成功**した。
- その後、ごみ焼却施設の老朽化が課題となり他の自治体とともに広域処理化に向けた新たな施設の整備を計画、2020年にはプラごみの資源化施設も整備される.
- これと併せて、環境の負荷のさらなる低減化を目指し、日野市で停滞している資源ごみの再利用、プラスチックごみの適正処理と削減、処理エネルギーの効率的利用を目的とした**“第二次ごみ改革”** に取り組む。
- これには市民一人ひとりの意識の改革と努力が必要であり、地域を未来に引継ぐため**SDGs達成に向けた未来志向の共感づくり**が求められる。

令和2年1月からプラスチックごみの分別収集をスタート

◆日野市のごみ処理行政の課題

○ごみ減量の機運の盛上りの低下

⇒第１次ごみ改革（ごみ処理有料化）から20年経過

- ごみ減量の意識が薄れてきている。
- １人1日当たりのごみ量の減り方が少なくなっている。

○資源化率の低迷（ 34%　多摩地区30市町村中21位）

⇒プラスチック類ごみ資源化の遅れ

- プラスチック類ごみの激増（不燃ごみの約8割を占める）

○可燃ごみの共同処理（日野市、国分寺市、小金井市　Ｒ２．４本格稼動）

⇒地元要望による焼却処理施設計画規模の縮小

（焼却ごみ量の削減）プラごみ資源化の推進

これらの日野市の課題を解決し、「地球温暖化」「海洋プラスチックごみ」などの世界的環境問題への対策にもつなげ、持続可能な社会を構築し、次の、またその先の世代へ豊かな地球環境を引き継いでいくために・・・

「第２次ごみ改革」を実施

第2次ごみ改革では・・・

【目　　的】

「ごみ減量」、「資源化率の向上」

【目 標 値】

［ごみ減量］（1人1日当たりのごみ量）

H30　617g　→　**R8　545g**（−72g）

多摩地区　4位　→　多摩地区　1位

［資源化率の向上］

H30　34%　→　**R8　45%**

多摩地区 21位　→　多摩地区 ベスト5

【施　　策】

［ごみ減量］　①容器包装お返し大作戦 ②マイバック運動 ③生ごみ減量 ④食品ロス対策事業 ⑤リフューズ運動 ⑥リサイクル運動　の強化

［資源化率の向上］（焼却ごみの削減）

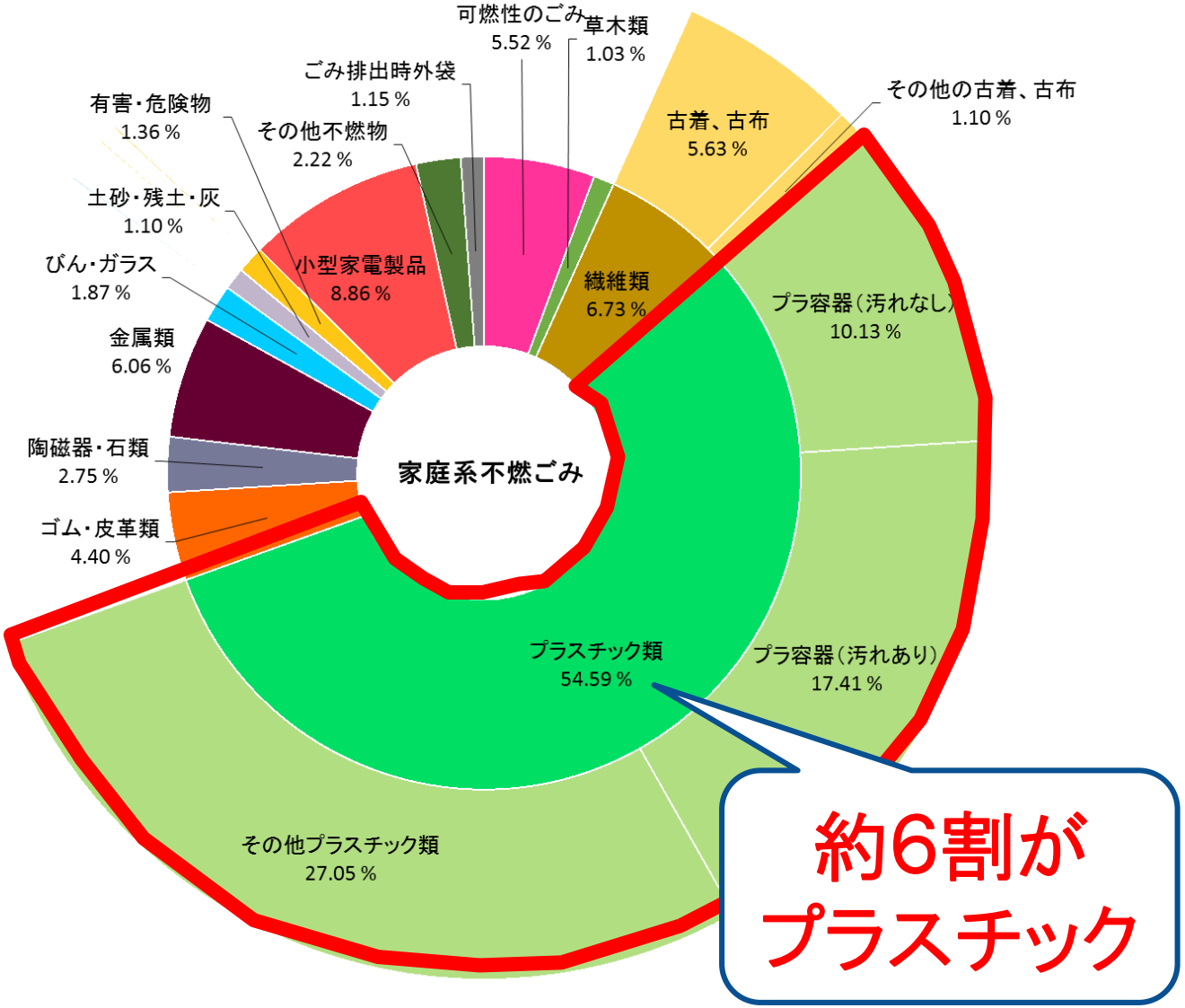
①資源ごみ分別排出の徹底

②プラスチック類ごみの分別収集開始　R2.1

プラごみの資源化の背景

～焼却ごみの減量と資源化率の向上～

日野市のプラスチック類ごみの状況（プラごみ分別収集開始前）



約6割が
プラスチック

可燃・資源ごみを除くと
約80%がプラスチックごみ

可燃ごみにも
約15%のプラ

これまでのごみ減量（プラごみ削減）の取組み

◆マイバッグ運動・容器包装お返し大作戦

（改めて拡大生産者責任を問う）

マイバッグ運動

- 平成20年度に市民、スーパー等の事業者、行政で構成する「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を開始し、市内スーパー等全店での**レジ袋無料配布中止を協議**
- 毎年5月，10月（当初は毎月）をマイバッグ持参強化月間として、スーパーなどの協力のもと市民と行政でマイバック持参の呼びかけと持参率の調査を実施

【成　果】

「いなげや」がレジ袋の無料配布を中止。

平成21年度にスーパー等市内全店舗での「レジ袋無料配布中止」の合意を得たが、リーマンショックの影響などにより実現には至らず。

しかし「レジ袋削減」の流れは、徐々に浸透し、現在は、有料（9）・値引き（2）・ポイント付与（2）によりレジ袋の配布削減に取り組んでいる。　※無料は2店舗、

※7月からは全店舗で有料化を予定している。

レジ袋辞退率調査結果

配布方式	辞　退　率
有料店舗	84%
値引き店舗	49%
ポイント付与店舗	38%
無料店舗	11%

容器包装お返し大作戦

●「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」で、「マイバッグ運動」と連携して「容器包装お返し大作戦！」もPRを実施

●さらに、同会議での合意を経て、平成22年度からは、2週に1回だったペットボトルとトレーの行政回収頻度を4週に1回に減。

【成　果】（重量ベース）
平成22年度の行政回収量前年度比
ペットボトル　24．8％減
トレー類　　29．6％減

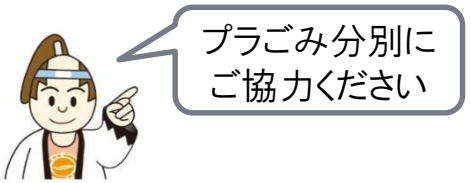
【課　題】
・店頭回収実施店、回収品目の拡大
・お返し率の向上

現お返し率　：　トレー4割　　ペットボトル3割
協力店　22店舗

膨大となったプラごみへのさらなる対応

令和2年1月からプラスチック類ごみの分別収集をスタート

資源化には、市民の適正な分別排出が不可欠



◆プラごみ分別収集開始に向けて

令和元年度から説明会を実施

①中学校区説明会　（8学校区）　出席者　315名

②自治会・任意グループ出前講座　（ 122回 ）　出席者　3,251名

全庁的な取組としてキャラバン隊を結成して取組み

特に考慮した点

①分別方法

市民がわかりやすい分別方法であるプラ全般（容器包装、製品）を対象とした。

②収集経費

不燃ごみは、これまでのトレーの日（週1回）に、プラごみはこれまでの不燃ごみの日（週1回）の収集とすることにより、収集経費の増を抑えることができた。

③不燃ごみ袋の「使い切り」への対応

当面は、不燃ごみ袋でもプラごみ排出可として対応

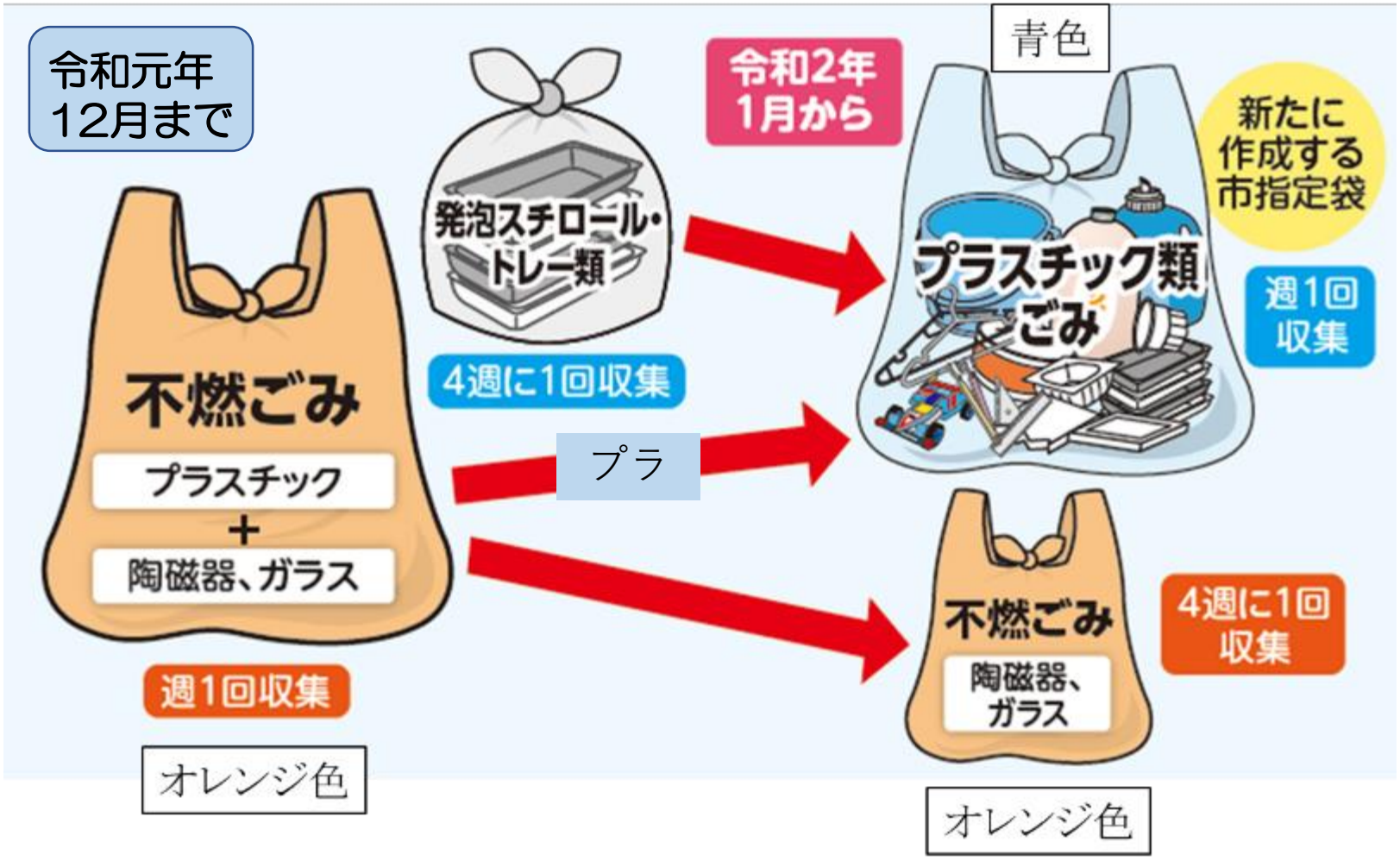
④お年寄りなどにもわかりやすく説明

・ガイドブックを作成し全戸配布（特にどの程度きれいにすればよいか）

・出前講座では、実物のプラごみを持ち込んで説明

大きな混乱もなく順調にスタート

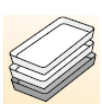
プラごみ分別収集に伴う
ごみの出し方変更点



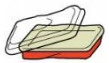
ペットボトルは4週に１回のペットボトルの日に収集（変更なし）

とんなものを出せるのか？

日野市では、



①プラスチック製容器包装



②製品プラスチック

両方をプラごみで収集することとしました。

【両方を収集することとした理由】

◆市民がわかりやすい分別方法とすることで、プラごみの分別排出をより一掃推進するため（市民との協働で策定した第3次ごみゼロプラン）

◆製品プラスチックもプラごみで収集することにより、共同処理施設での可燃ごみの焼却ごみ量の削減を図るため

（プラスチック類資源化施設建設計画時は、製品プラも有償で買い取られていた。）

プラごみ資源化による効果と今後の展開

プラごみリサイクル率による効果検証

H30年度プラごみリサイクル率
（ペット、トレー類のみを分別収集）
7%

プラごみを分別収集していたら（試算）
（可燃ごみで排出されていたプラの10%、不燃ごみで排出されていたプラの90%がプラごみで排出されると仮定）

容器包装プラのみ分別収集	製品プラも含めると
⇩	⇩
22%	49%

プラごみのリサイクルを推進するために
市民への適正な分別排出をさらに啓発していきます。

プラ資源化の今後の展開

①可燃ごみに混入しているプラごみについて「汚れを落としてプラごみへ」のほか、プラ収集量に対して100%の資源化を目指し、広報等で正しい分別方法をさらに周知していく
②市民への「容器包装お返し大作戦」のさらなる周知と店頭回収実施店の拡大
③製品プラ店頭回収及びリサイクルの実施事例の調査、検討。
④使い捨てプラの削減に向けた市民への啓発強化

ごみそのものの減量が一番肝心！

プラごみ削減に向けて今後目指す取り組み　～SDGs未来都市　日野として～

日野市　「プラスチック・スマート宣言」　（検討中）

Plastic Smart CITY

TRANSFORMING OUR WORLD
SDGs IN ACTION HINO

プラスチックごみゼロ社会に向けた、市の率先した取組を推進

行政が市民と共に、プラスチック廃棄物等の問題への深い理解と共感を持って取り組むため日野市役所として率先して「プラスチック・スマート宣言」を行い、プラスチックごみゼロ社会に向けた生活スタイルへの転換に取り組みます。

【取組項目（案）】
- マイバッグ、マイボトルの徹底　＋マイ箸、マイストローの推奨
- 配布物（啓発グッズ）等における使い捨てプラスチックの原則禁止　　Ｅｘ．クリアファイルなど
- イベント等での食器における再生可能品や紙素材等の活用、マイ食器持参の推奨
- 来客や会議等でのペットボトル飲料の禁止、イベント等での使い捨て鉛筆の配布禁止
- 自販機等のペットボトル飲料の取り扱いの削減目標設定　⇒　ウォーターサーバーの試験導入
- 庁内研修の実施

市役所へのエコ給水機の設置
冷水器の撤去（検討・調整中）

ＳＤＧｓ取組認証、プラスチックごみ削減取組認証制度の実施　（検討中）

市内の事業者、団体等のSDGs、プラスチック削減の取組を認証する制度の創設

市内の市民、事業者、地域団体等がそれぞれの創意工夫によりSDGs、プラスチックごみ削減に取り組み、またその取り組みやアイディアを共有するため。SDGs取組認証、プラスチックごみ削減取組認証の制度を新たにつくります。

認証した取組はHPで公表するほか、活動内容なども公表し、取組を共有していきます。

オリジナル　取組認証ステッカー

イメージ